21　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名や返り点を省略した箇所がある。　　　　　　　〈岐阜大〉二〇二二年度出題

　魏　王　 楚　　美　㆒。楚　王　 。夫　人　　　㆔ 王　之　 新　㆒ 也、　㆓ 新　㆒。衣　服　玩　好、㆓ 　一㆑ 而　㆑ 、宮　室　臥　具、 　一㆑ 而　 、１愛 之 甚 於 王。王　、「婦　　所 　 　、ａ色　也。　 　　情　也。今　鄭　褏　㆔ ｂ寡 人　之　 新　㆒ 也、　愛　之　甚　於　寡　人。　孝　子　之　所 以　 、忠　臣　之　所 以　 　。」

　鄭　褏　㆓ 　㆑ 　 ㆑ 　也、　 新　㆒ 、「王　㆓ 　㆒ 矣。㆑ ｃ悪㆓ 子　之　㆒。子　 、　　 　㆒。」新　人　㆑ 。 ㆓ 　㆒。王　 鄭　㆒ 、「　新　人　 寡　㆒、　㆓ 　㆒。　。」鄭　褏　、「妾　 也。」王　、「２雖㆑ 悪、必　言㆑ 之。」鄭　褏　、「　 悪㆑ 王　之　㆒ 也。」王　、「 哉、３令㆑ 劓㆑ 之。無㆑ 使㆑ 逆㆑ 命。」

（『戦国策』より）

（注）

　玩好…身の回りの品、好みの品。

　聞…香りを嗅ぐこと。

　悍…気の強い奴め、の意。

　劓…鼻を切り落とす刑罰。

問１　二重傍線部ａ～ｃの語を訳せ。

問２　傍線部１「愛之甚於王」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。仮名遣いは問わない。

問３　傍線部２「雖悪、必言之」を現代語訳せよ。

問４　傍線部３「令劓之。無使逆命」を現代語訳せよ。

◎問５　夫人が新人を陥れた計略について説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝容色

「容貌」「美貌」なども可。

　　　ｂ＝私

　　　ｃ＝嫌う

問２　これをあいすることよりもはなはだし

問３　Ａ私にとってＢ嫌なことであったとしても、Ｃおまえは必ずＤ新人が鼻を覆う理由をＥ言いなさい。

Ａ＝１

Ｂ＝４〔「嫌なこと」は「よくないこと」など、同意可。「～であったとしても」と逆接の仮定の形になっていないものは０。〕

Ｃ・Ｅ＝３〔「おまえは」はなくても可。命令形でないものは０。〕

Ｄ＝２〔「新人」は「新来の美人」など、同意可。「之」が指す内容がないものは０。〕

問４　Ａ係の者にＢ新人のＣ鼻を切り落とさせよ。Ｄ私の命令に逆らわせてはならない。

Ａ＝１〔「役人」など同意可。〕

Ｂ＝３〔「新人」は「新来の美人」など、同意可。「之」が指す内容がないものは０。〕

Ｃ＝３〔使役形でないものは０。命令形でないものは０。〕

Ｄ＝３〔「私の」はなくても可。使役形でないものは０。禁止の形でないものは０。〕

問５　まずＡ新人をがり、Ｂ王の信頼を得た。そしてＣ王が鼻を嫌っているので王の前では覆うよう新人に教えた後、Ｄ新人が王の臭いを嫌って鼻を覆っていると王にを言い、Ｅ王が新人の鼻を切り落とすように仕向けたという計略。

Ａ＝２

Ｂ＝２〔「王に嫉妬していないと思わせた」であれば減点１。〕

Ｃ＝２〔新人が鼻を覆うようになった理由が書けていなければ０。〕

Ｄ＝２〔王に述べた、新人が鼻を覆った噓の理由が書けていなければ０。〕

Ｅ＝２〔「仕向けた」といった内容がなければ減点１。〕

【書き下し文】

王にをる。楚王をぶ。王のを説ぶをるや、だ新人をす。、のむをびて之をり、、其のしとする所を択びて之を為り、問２之を愛すること王よりも甚だし。王く、「のにふるのは、なり。してむ者は其のなり。今鄭褏の新人を説ぶを知るや、其の之を愛すること寡人よりも甚だし。れのに事ふる所以にして、のに事ふる所以なり。」と。

　鄭褏王のを以て妬まずとすを知るや、りて新人にひて曰く、「王の美を愛す。りとも、子のをむ。子王にゆるを為さば、ちず子の鼻をへ。」と。新人王に見ゆ。因りて其の鼻を揜ふ。王鄭褏に謂ひて曰く、「の新人寡人を見れば、則ち其の鼻を揜ふ。ぞや。」と。鄭褏曰く、「知れり。」と。王曰く、「悪むと雖も、必ず之をへ。」と。鄭褏曰く、「其れ王のをくを悪むにたり。」と。王曰く、「なるかな、之をらしめよ。にらはしむるかれ。」と。

【現代語訳】

　魏の国の王が楚の国の王に美人を贈った。楚の国の王はこれを喜んだ。（楚の国の王の）夫人の鄭褏は王が新（しく来た美）人を喜んでいることを知ると、（自分も）とても新人を可愛がった。衣服も身の回りの好みの物も、その（美人の）好みの物を選んでそれを作り、宮殿や寝具も、その（美人の）よいと思う物を選んでそれを作り、これを可愛がることは王よりも甚だしかった。王が言った、「婦人が夫に仕える手段として（役に立つもの）は、問１ａ容色である。そして（夫人が夫を）嫉妬するのはその（普通の）感情である。（ところが）今鄭褏は問１ｂ私が新人を喜んでいることを知ると、その（＝鄭褏の）この者を可愛がることは私よりも甚だしい。これこそ孝行な子が親に仕える方法であり、忠義な家臣が王に仕える方法である。」と。

　鄭褏は王が自分のことを（新人に）嫉妬していないと思っていることを知ると、そこで新人に教えて言った、「王はあなたの美しさを愛しています。そうだとしても、あなたの鼻を問１ｃ嫌っています。あなたが王にお目にかかるならば、そのときには必ずあなたの鼻を覆いなさい。」と。新人が王にお目にかかった。そこでその鼻を覆った。王が鄭褏に尋ねて言った、「あの新人が私を見ると、その鼻を覆う。どうしてか。」と。鄭褏が言った、「私は知っています。」と。王が言った、「問３（私にとって）嫌なことであったとしても、（おまえは）必ずその理由を言いなさい。」と。鄭褏が言った、「それは王の臭いを嗅ぐのを嫌っているようです。」と。王が言った、「気の強い奴め、問４この新人の鼻を切り落とさせよ。（私の）命令に逆らわせてはならない。」と。